

気仙光陵支援学校

研究テーマ

「児童生徒一人一人が主体的に取り組む授業づくり・生活づくり」

～各教科等を合わせた指導の充実を目指して～
(2年次研究1年目)

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

児童生徒の将来の自立、豊かな充実した生活のためには、児童生徒が主体的に活動し、達成感や充実感を感じる経験を積み重ねることが大切だと考え、メインテーマを設定した。

また、本校では、教科別の指導を行うほか、必要に応じて各教科等を合わせて指導を行い、効果的な指導方法を工夫しながら取り組んでいる。各教科等を合わせた指導の授業改善により、児童生徒がどのように学ぶか(「主体的・対話的で深い学び」が実現できているか)を見つめ直すきっかけとなり、資質・能力を育むための一つの有効な手段となるのではないかと仮定し、サブテーマを設定した。

(2) 研究の目的

各教科等を合わせた指導において、各教科等の視点を踏まえた目標を設定し指導・支援に取り組むことを通して、児童生徒一人一人がより主体的に活動し、生きる力を育むことのできる授業づくり・生活づくりを目指す。

(3) 研究の内容

- ① 新学習指導要領解説にある各教科等の「目標・内容の一覧」をもとに各教科等を合わせた指導の目標をたて、内容を検討する。
- ② 教科別の指導との関連を意識しながら授業改善・支援の充実を図る。

(4) 今年度の実践

【全校研究】

- ① 校内研究の方向性の確認
- ② 授業研究会の実施
(開かれた授業研究会との併催)
 - ・第1回： 中学部 作業学習
 - ・第2回： 高等部 作業学習
 - ・第3回： 小学部 生活単元学習助言 学校教育室 指導主事
竹田 友一郎 氏

③ 研究のまとめ

【学部・寄宿舎研究】

① 小学部

生活の中で生きる各教科等の力を獲得することを目指し、生活単元学習で授業実践を行った。各教科等とのつながりを深めるため、単元のねらいに関連する教科等を明記し、個人の目標と手立てを明確にするために「個別目標シート」を作成して授業者間の共有を図りながら授業づくりに取り組んだ。

② 中学部

作業学習における各教科等の主な目標を個別に3観点で設定し、学部または各作業班で共有した。従来の作業学習では、生徒が主体的に効率よく作業できるようにするという視点での授業改善が主であったが、それに加えて、教科の目標を明文化することで教科の視点からも授業改善を図ることができた。

③ 高等部

作業学習において以下2点に取り組んだ。
・「各教科等で身に付けた力を発揮できる授業づくり(授業改善シートの活用)」…教科別指導の個別目標達成状況を確認し、目標や学習内容に生かすようにした。
・「教科・領域関連表の作成」…作業内容と関連する各教科・領域等を示した表を作業班ごとに作成し、つながりを確認した。

④ 寄宿舎

学校との連携を深める一助として、対象生徒をピックアップし、学級担任等と情報交換を行いながら目標や手立ての確認を行った。目標については、多面的に実態をとらえ、様々な場面で活用できる力を身に付けることをねらい、学校と寄宿舎で共有して取り組めるものを設定した。これをもとに、次年度は本格的に指導・支援を実践していく。

2 講演会

演題:「各教科等を合わせた指導だから生かせる教科の力」

講師:岩手大学大学院教育学研究科 准教授
佐々木 全 氏

期日:令和3年8月2日(月)

参加者:48名

3 刊行物 研究集録は刊行していません。